

ホンヤラドウの雪小屋

この構造物は、地元の方言でホンヤラドウと呼ばれています。伝統的に、この雪小屋は「鳥追い（鳥追い）」と呼ばれる冬の行事のために建てられます。

鳥追いは、十日町の農村における重要な伝統行事です。伝統的に1月14日に行われるこの風習は、農作物を食べるおそれのある鳥を追い払う儀式です。子供たちは鳥追い唄を歌いながら、町を練り歩き、拍子木を打ち鳴らします。住民はご褒美として、子供たちに餅やお菓子を与えます。子供たちは、ホンヤラドウの中で小さな炭ストーブで暖を取り、夜遅くまで遊びます。

同じような雪小屋は、日本の他の雪深い地域でも「かまくら」として知られています。ホンヤラドウの由来は、田んぼで鳥を追い払うときに「ほんやら」というかけ声を繰り返す、鳥追い唄にあるようです。ざっくりと訳せば、「ほらほらあっち行けの小屋」ということになります。

今では農作業と密接な関係はなくなってしまいましたが、鳥追いとホンヤラドウは、十日町の冬の風物詩として愛され続けており、住民が豪雪を楽しみ、コミュニティを作るきっかけの1つとして役立っています。